

会長退任にあたって

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
前会長 新 芝 宏 之 CMA



会長退任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

2017年8月からの2期4年にわたり、会長を務めさせていただきました。

振り返ればあっという間の4年間でしたが、世の中の動きはあらゆることにおいて変化が加速した期間であったと感じています。米中新冷戦、ステークホルダー資本主義の台頭、サステナビリティの潮流、第四次産業革命の進展などが急速に進み、わが国では新時代「令和」が始まりました。そして、今般のコロナ禍は既存の秩序を根底から揺るがし、人々の価値観や行動様式は不可逆的に大きく変容しています。特にデジタルイゼーションの流れにおいては、次の時代へと時計の針が一気に進んだと感じています。

証券アナリストを取り巻く環境も大きな変革の渦中にあります。会長就任時には「制度改革」と「技術革新」により、証券アナリストを取り巻く環境が大きく変化していることについて触れましたが、変化の波は更に加速しています。制度面では、コーポレートガバナンス・コード及びスチュワードシップ・コードの改訂を経て企業統治改革が更に進展し、フェア・ディスクロージャー・ルールや欧州のMiFID IIの導入により、証券アナリストはどのような「付加価値」を提供したのかを評価される時代が到来しています。技術面では、AIやビッグデータ等の技術開発が進み、テクノロジーを使いこなす力がますます重要となっています。

証券アナリストにとって受難の時代と言われることがあります。確かにそのような面も否定できないのかもしれませんが。しかしながら、新たな時代における証券アナリストは、企業価値の「評価」だけでなく、中長期的な企業価値の「向上」への貢献や、企業と投資

家との建設的な対話の橋渡し役など、より広範な分野での活躍を期待されており、証券アナリストがインベストメント・チェーンにおいて担う役割は大きく、まさに証券アナリストの真価が問われる時代だと考えています。

他方、証券アナリストが有する専門能力に対する需要が多様な分野で高まっているとも感じています。現在、CMAは2万7,500名超にまで拡大していますが、その所属は金融機関にとどまらず多様化が進んでいます。例えば、企業の経営・財務分野において資本コストという概念が不可欠になるなど、高度な専門能力を備えた人材が求められています。社外取締役として活躍される方々も増えてきました。CMAの活躍の場が広がり、証券アナリストの概念が変わってきています。

そのような中、協会では証券アナリストのイメージを幅広い分野で活躍する方向に変えていく必要があることから、2019年4月にCMAの資格称号及びロゴを制定しました。これにより、CMAが様々な分野における専門的な知識や分析スキルを持つ金融・投資のプロフェッショナルであると協会が認定していることを明確化しました。これをきっかけにCMAブランドが更に広がっていくことを願っています。

また、本年6月には、15年振りに「CMAプログラム」を刷新しました。証券アナリストに求められる専門能力は時代と共に変化しており、資格制度も時代に合わせて進化させなければなりません。新たなカリキュラムには最新のトピックスも多く取り入れ、実務の視点から教材を作成する等の工夫を凝らしています。

任期最後の1年余りはコロナ禍の中で、難しい運営を余儀なくされました。一方で、コロナ禍を奇貨としてデジタルイゼーション等の施策を進めることに注力いたしました。協会には今後も一層の改革に取り組んでいただくことを期待しています。

会長就任以来、自分には何ができるのか、何をすべきか、ずっと自問自答を繰り返してきました。微力ながらいくらかでも皆さまのお役に立つことができたとしたら幸いです。

末筆ではございますが、ご指導並びにご支援くださいました多くの方々にご心より感謝を申し上げますとともに、会員の皆さまのますますのご活躍と協会の更なる発展を祈念して退任のご挨拶とさせていただきます。

(新芝氏は、2017年8月から21年8月まで当協会会長を務められました。)